

2026年
3月23日 No.1831



週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryu.co.jp>



潮流

「住生活教育」の副教材を提供

株式会社CHINTAI プランニングディビジョン部長 宮越大樹 ①

資料

中学校 情報・技術科(仮称)個別の内容について

——情報・技術
ワーキンググループ

CONTENTS

▶ 2 潮流

「住生活教育」の副教材を提供

宮越大樹(株式会社CHINTAI プランニングディビジョン部長) ①

▶ 5 解説・ニュースの焦点

○高校の共通教科「理数科」の目標などを整理

○7～19歳の障害者、「週1日以上」運動は38.3%

編集部

▶ 8 特別企画

「AI for Science」とは？

編集部

▶ 10 校長講話

「心の取り扱い方」を学ぶ

関根郁夫(埼玉県立浦和高等学校 元校長)

▶ 12 保護者・地域・学校でつくる学びの未来

公立学校の可能性を可視化

全国に広がる「オモロー授業発表会」

長島ともこ(フリーライター、エディター)

▶ 14 君たちが18歳になる前に

生活を科学する

安藤 博(子ども法学者)

▶ 16 安心・安全な学校運営のための危機管理

これからのスクールカウンセラーの発展課題

—メンタルヘルスとウェルビーイングへの貢献—

新井 雅(跡見学園女子大学 教授)

金子恵美子(慶應義塾大学 准教授)

▶ 19 資料

中学校 情報・技術科(仮称)個別の内容について

情報・技術ワーキンググループ

▶ 35 教育問題法律相談

離婚後の共同親権下での親権の単独行使

角南和子(弁護士)

▶ 36 学校事務新時代

公立高等学校の学校事務の可能性を探る③

地方創生人材の育成と事務職員

吉村由巳(愛媛県立吉田高等学校 事務長)

▶ 38 学級・授業づくり 虎の巻

MCから学ぶ

教師の「コミュカ」向上大作戦(後編)

俵原正仁(兵庫県・芦屋市立浜風小学校 前校長)

▶ 40 管理職養成 教頭実務ガイダンス

新年度準備を通してつくる人と組織

野口みか子(全国公立学校教頭会顧問会 元会長代理)

▶ 42 高校現場最前線

再編統合による普通科改革④

渡辺淳一(北海道岩見沢東高等学校 校長)

▶ 44 現場の課題に答える教育機関

海外にもルーツを持つ子ども・若者の

学びを支えるYSCグローバル・スクール

福岡里砂(特定非営利活動法人青少年自立援助センター

YSCグローバル・スクール 広報担当) ②

▶ 46 子どもと貧困——いま、そこにある現実

暴力教師たちが掲げた「反戦平和」

雨宮処凛(作家、活動家、一般社団法人反貧困ネットワーク 世話人)

▶ 47 BOOK

『子どもの「間違い」の生かし方』岩崎直哉、志田倫明

『災害福祉研究 防災・復興の福祉とレジリエンス』都築光一

▶ 48 自著を語る

『3万人の親子に寄り添ってきたスクールカウンセラーが

伝えたい 10代の子どもの心の守りかた』

普川くみ子(公認心理師、臨床心理士、スクールカウンセラー)

▶ 51 品川裕香の共感教室

読解力が上がらないのは

言語能力以前の認知機能の問題(前編)

品川裕香(教育ジャーナリスト)

▶ 52 マイオピニオン

子どもの自殺について

岩永直子(医療記者)

▶ 別冊・教育小辞典 上巻

リーダーのための最新教育キーワード(令和8年)

高等教育、科学技術・学術、国際教育、文化・芸術、総合教育政策

潮流

(株)CHINTAI
プランニングディビジョン部長
みやこしだい
宮越大樹さんに聞く上



「住生活教育」の副教材を提供

2013年に株式会社CHINTAI入社。営業職を経て学生支援施策を担当。進学や就職で一人暮らしを始める高校生向け副教材の制作を推進し、全国1491校・累計21.7万人に提供。学生の新生活を支援するサービス「ガクサポ」の立ち上げにも携わる。

高校生に賃貸物件の基礎知識を伝え
体験的に学べるようにした
「住生活教育」の副教材を
無償で提供してきた。

高校家庭科の副教材を提供

—2024年から高校の家庭科の副教材を学校現場に提供されました。

宮越 株式会社CHINTAIでは、住まいに関する情報発信などを通じて、安心して暮らせる住環境づくりに取り組んできました。その中で、若年層に向けた学生プロジェクトを約2年半前に立ち上げました。進学や就職を機に一人暮らしを始める高校生に向けた情報提供の必要性を感じ、2024年に『高校生のためのお部屋探し&一人暮らしガイド』（次ページの画像）を作成しました。

高校での家庭科の学習などで、副教材として活用していただけるように、賃貸契約の基礎知識やトラブル予防まで、住まいに関する基礎知識を学べる内容になっています。

—高校生が学べる副教材を提供された背景は。

宮越 成人年齢が18歳に引き下げられたことで、高校3年生の在学中から、若年層が契約当事者となる機会が増えています。その一方で、住まい契約に関するトラブル相談も増えています。国民生活センターによると、2024年度に寄せられた18、19歳の消費生活相談は8962件に上り、その中でも「賃貸アパート」に関する相談は上位に位置してい



ます。こうした背景から、契約後のトラブル対応だけでなく、契約前に基本的な知識を学ぶ機会を、授業の中で設ける動きも広がっています。適切な教材がないという高校現場の先生方からの声をお聞きしました。調理や被服では実習もありますが、住教育にはなく、配当時間も少ない中で、苦勞をされています。

実は、成年年齢の引き下げを契機に、弊社が発行している『情報誌CHINTAI』を高校の家庭科の授業で活用している先生が全国にいたることが分かりました。そこで、高校現場の家庭科を担当されている先生などにご協力をいただき、『高校生のためのお部屋探し&一人暮らしガイド』を作成しました。現在まで、全国の1491校の高校でご活用いただき、累計で21万7000部以上、配布し

てきました。

—— どのような内容の副教材ですか。

宮越 初めての一人暮らしを控えた高校生を対象に、物件探しから契約、引っ越しまでの基礎知識を分かりやすくまとめています。家庭科の授業などでも活用しやすく工夫しました。

契約や内見のポイント、費用の考え方など、実生活に直結する情報を易しく解説しました。今回、この副教材の内容を改訂し、防災・防犯対策や原状回復の基本など、一人暮らしで直面しやすいトラブルを未然に防ぐ内容も強化しました。高校生が、将来の暮らしを具体的にイメージしながら、一人暮らしの準備について前向きに学べる構成になっています。

問取りや条件などから選ぶ体験も

—— 問取り図の見方や希望条件を比較して考える機会がありますね。

宮越 副読本では、問取り図（部屋の形状、広さ、配置などを示した図面）の見方や、「1畳」の広さも地域や用途によって異なること、希望条件の優先順位を考えるなど、知識だけでなく、自分で条件を比較しながら契約時にかかる初期費用の目安をシミュレーションできるようにしています。例えば、駅から近い物件を優先するのか、家賃や問取りなどを優

先するのかわによって、選ぶ物件も違ってきます。

また、日本全国のエリア別の家賃相場や賃貸事情なども解説していますので、全国各地の高校で活用できるほか、就職や進学先の地域の情報も分かるようにしています。

—— 今回、この副教材を改訂されました。

宮越 副教材を授業で使いやすくなるために、指導案ガイドを今年の1月に作成しました。指導案（略案）のほか、「はじめての一人暮らしすごろく」やワークシートなど、授業や授業以外でも活用できる資料を追加しました。

—— 契約のルールなどだけでなく、実際に部屋探しや契約の初期費用を見積もる学習ができる点はいいですね。

宮越 契約時のトラブルが多いこともあって、事前に知識を知っておくことも大切ですが、高校生の家庭科などで、賃貸物件の契約について学ぶのは、恐らく学校教育としては最後の機会になるのではないかと思います。ですから、トラブル対応的な内容だけでなく、自分の生き方や将来の生活のイメージをしっかり考える機会にできるように、知識だけでなく、実際に物件選びの際に重視する条件などを考えて、自分なりの一人暮らしのイメージを持てるようにしています。

——この副読本の中では、自分らしい住まい選びを考える内容も紹介しています。

宮越 専門紙が行った調査では、エアコン、室内洗濯機置き場、TVモニター付きインターネットフォンなどに人気がありますが、実際にそのような物件に住んでみると、それほど必須ではないことに気づくケースもあります。ですから、自分が重視する住まい選びのポイントとそれに必要となるコストを比べて、自分なりに一人暮らしに必要なものについて考える機会にしてほしいと思います。

例えば、「南向き」などの日当たりを重視していても、実際に住んでみると、昼間は大学や職場にいるために、部屋の向きはあまり関係なかったりすることもあります。ですから、本人にと



って好都合な条件だけでなく、具体的な生活のイメージを持って、将来の生活とひも付けができる力を育てることが大切ではないかと思えます。

「すくろく」で遊びながら考える機会も

——「すくろく」などを追加しているのは面白いですね。

宮越 今回、東京学芸大学の萬羽郁子准教授にご協力をいただき、副教材とは別に「すくろく」を作成しました。サイコロや駒も印刷しており、自分で遊べるようになっていきます。「書類に不備があり、契約ができずに二度手間になる」などのトラブルで「一回休み」があつたり、「近所を散策！ 気になるカフェを発見した！」「家計簿をつけ始めた！」「バイト代を計画的に使えるようになったぞ！」など、一人暮らしのストーリーを経験したり、クイズで正解するとトマス進めたりします（画像）。

——自分に合った部屋を選んだつもりでも、実際に生活してみると思ったほど理想的ではないということもあります。

宮越 そうですね。自分に合った部屋選びは、実際にはなかなか難しいことが多いです。実際に生活をして経験することで、当初イメージしていた優先順位が変わったりすることもあります。ただ、今回の副教材は、実際に一人暮らしを始める前に、なるべくイメージを具体的に持てるように、必要な情報や条件を考える機会を提供することに力を入れました。

——指導案まで提供されており、現場で副教材を使って授業をしやすいですね。

宮越 指導案については、住生活教育の専門家である萬羽郁子先生にもご協力いただき、授業で活用しやすい指導案の作成にも取り組みました。50分×2時間と50分×4時間の2案を示しました。このほか、「一人暮らしの防災準備ワーク」として、地域のハザードマップを確認したり、部屋にいるときに地震が発生した場合の家具などの危険性などを確認したりするワークや、防災に備えたアイテムや行動の備えをチェックするシートなどもご提供しています。これらの資料は、データでご提供していますので、副教材と併せて活用していただけると、より授業の効果を高めることができると思います。

高校生にとって、一人暮らしは初めての経験となりますが、保護者にとっても、子どもが一人暮らしを始めるのは大きな不安があると思います。防災なども含めて、今回の副教材については、家庭科の授業だけでなく、進路指導、三者面談などでも活用していただいたり、公民科の科目「公共」などで活用していただいたりするケースも増えていきます。

株式会社CHINTAI II
<https://www.chintai.jp/>

